

高次脳機能障害リハビリテーション学演習

[演習] 第1・2学年 後期 選択 2単位

《担当者名》 中川賀嗣 poverame@hoku-iryu-u.ac.jp 田村 至

【概要】

高次脳機能障害は、大脳の機能的構造に由来した多くの特徴を有する。この高次脳機能障害の各症状を文献や症例を通じて学び、理解を深める。

【学修目標】

一般目標：高次脳機能障害の各症状を評価できるための知識を身につける

1. 視覚性物体失認の評価法の要点を理解し、説明できる
2. その他の視覚性失認の要点を理解し、説明できる
3. 聴覚失認の要点を理解し、説明できる
4. 触覚失認の要点を理解し、説明できる
5. 道具の使用失行の要点を理解し、説明できる
6. パントマイムの失行の要点を理解し、説明できる
7. その他の失行の要点を理解し、説明できる
8. 各記憶障害の要点を理解し、説明できる
9. 各前頭葉機能障害の要点を理解し、説明できる
10. 各認知症性疾患の要点を理解し、説明できる

行動目標：高次脳機能障害の各症状の評価を実施することができる

1. 視覚性物体失認の評価を実施することができる
2. その他の視覚性失認の評価を実施することができる
3. 聴覚失認の評価を実施することができる
4. 触覚失認の評価を実施することができる
5. 道具の使用失行の評価を実施することができる
6. パントマイムの失行の評価を実施することができる
7. その他の失行の評価を実施することができる
8. 各記憶障害の評価を実施することができる
9. 各前頭葉機能障害の評価を実施することができる
10. 各認知症性疾患の評価を実施することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～7	高次脳機能障害（失認、失行など）について学ぶ。	血管障害、大脳変性疾患等による高次脳機能障害の各症状の評価法について学ぶ	中川賀嗣
8～15	高次脳機能障害（認知症、記憶障害、前頭葉機能障害）について学ぶ。	脳血管障害、神経疾患における高次脳機能障害（認知症、記憶障害、前頭葉機能障害）の定義、症状、評価法などについて学ぶ。	田村 至

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

演習後半の技能を評価する（口頭での説明50%、技能の到達度50%）

【教科書】

文献資料・マニュアルを各自準備して行う

【学修の準備】

予習：マニュアルや文献の読み込み等を十分に行う（60分）復習：各高次脳機能障害評価法の特徴をよく復習する（100分）

【実務経験】

中川賀嗣（医師） 田村 至（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床経験に基づく講義を行う。